

「北部管内の農地の保全活動及び遊休地の解消の
取組みをテーマとした事例発表及び意見交流会」

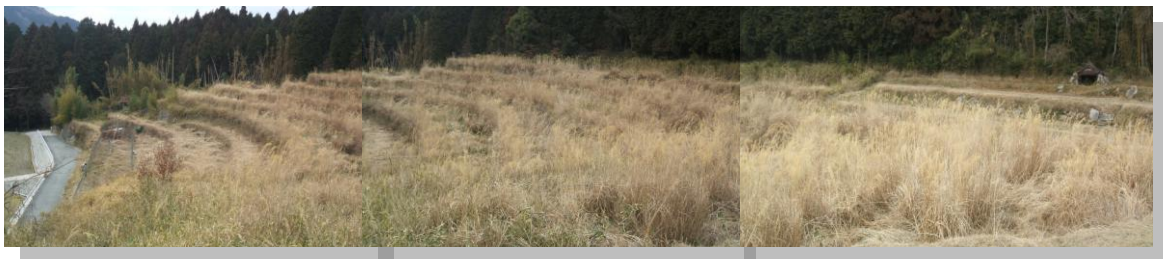
遊休地の現地視察

第1回会場は豊能町高山地区「右近の郷」を選んで戴いた北部農と緑総合事務所に感謝したい。耕作放棄・遊休地は全国的な社会問題となっている。原因は少子高齢化・担い手が不足・国の農業政策等々が問題となり遊休地が増えているのが現状。会場には遊休地解消関係者約40名が集結した。



高山棚田の現地視察

午後二時、「右近の郷」からすぐ高山の棚田の現地視察・見学を実施する。農のふるさと協力隊が活動する舞台に立った。協力隊から簡単な概略説明を実施。その後「右近の郷」会場に戻り各団体からの事例発表をする。



高山棚田全景

事例発表

発表は①豊能町の農のふるさと協力隊 ②能勢町神山地区 ③農業組合法人田尻農業の順で進行する。各25分前後の発表だ。各団体のリーダーからはこれまでに至るプロセス、苦労話、取り組み、今後の課題等についての発表であった。皆さん気力・スピリットが燃えているのに驚いた。

共に汗をかき共に笑い共に鍬を持つもの同士の成功事例、頭を痛めている事例、地域住民とのかかわり等の事例など、われら農のふるさと協力隊にとっては全てが新鮮な話ばかりである。地元農家と中学生との連携活動として取り組んでいる。田に水を張りビオトープにした…等々。すでに稲作作り・古代米が頭を垂れている様子がプロジェクトを使って映写紹介される、また20代の男女が野菜作りに入り奮闘している事例等々。今後の活動の新たな切り口、戸口のヒントを戴いた。



豊能町農のふるさと協力隊



農業組合法人田尻農産



能勢町神山地区

棚田保全解消のキーワード

苦労はやはり地域住民とのかかわりをいかにするか、できるかが棚田保全解消のキーワードのようだ。耕作地には水利権、土地の境界、借地権等々発生する。

豊能町からの事例は、活動六ヶ月の事例ではあるが、他の行政区（団体）とは違った発表内容である。遊休地約1100坪の保全・有効活用として

①草刈り②一部耕作③文化的な面も一部取り入れ、サンドイッチ方式で当面の活動としたい。たとえば棚田を使って和太鼓の演奏会・若者達の音楽コンサート・大声大会・凧揚げ大会・詩吟、かかし祭り等を試案中…。高山遊休地全てを稲作・畑に戻し、棚田本来の稲作景観は到底無理である（現状体制）。棚田から収益を得ようというのではなく…棚田から技術を習得し、遊休地（耕作放棄）解消の担い手の一人になりたい。また文化面から集客をし、地元利益還元になれば…と願う。



今回、高山地区から自治会会長が出席して戴いた。自治会として農への要望・期待の思いを話して戴け、これからの農の協力隊としての活動に大きな光りが見えた。また高山には大阪なにわ伝統野菜（16品種）の中に真菜・ゴボウが入っている。これらを耕作し伝統野菜を微力ながら支えていきたい。一朝一夕には進まない取り組みです。地域住民とボランティアとの長いスパンでのコミュニティ作りが大切である。

豊能町独自のオンリーワンに向け…

棚田解消は地域活性事業でもある。事業の重要は結果ではなく、それに至るプロセス（過程）であると思う。活動の中で創意工夫、試行錯誤、チャレンジをする事の繰り返しのなかで、地域住民・行政・ボランティアとのつながりができ絆ができる。豊能町独自の棚田保全のノウハウが生まれてくると信ずる。これら発表会を通じ感じました。参加して何か徳をした、大きな拾い物をした一日でした。



農のふるさと協力隊メンバー（17名）
遊休地解消に向け労を惜しまず。



ススキの株おこしに悪戦苦闘する…20分、帽子のつばから汗が滴り落ちる。

